

(図表 2-2-4-1) 食事過剰要求場面の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
		有効回答数	158	100.0
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	52	32.9
	102	席の変更	55	34.8
	104	仲の良い人の隣に座った	2	1.3
	105	テーブル、椅子の調整	1	0.6
	106	好きな音楽を流す	1	0.6
	190	その他	2	1.3
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした	31	19.6
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	20	12.7
	203	摂取状態に応じた食材形態変更	16	10.1
	204	おやつや代替え品を提供	77	48.7
	206	水分の摂取を増やす	68	43.0
	207	低カロリーの間食や夜食の提供	27	17.1
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	32	20.3
	209	スプーンを小さくする	6	3.8
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	10	6.3
	211	盛りつけの工夫	6	3.8
	212	好きなものを提供	2	1.3
	215	食事時間の調整	2	1.3
290	その他	4	2.5	
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる	91	57.6
	302	訴えを受容し、会話を多くする	67	42.4
	303	待ってねと声かけ	25	15.8
	304	別の場所へ移動し会話する	11	7.0
	305	味の感想を伺う	46	29.1
	306	食事以外の話をする	22	13.9
	308	着席のタイミングを調整した	1	0.6
	309	声かけをやめ、静かにする	1	0.6
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	5	3.2
	390	その他	4	2.5
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	46	29.1
	402	外出	70	44.3
	403	興味のあるものを提供	18	11.4
	404	計算ドリル	8	5.1
	405	役割	4	2.5
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう	2	1.3
	408	買い物につきあってもらう	4	2.5
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	5	3.2
	490	その他	1	0.6
その他	501	献立の掲示や説明	15	9.5
	503	体重の管理	1	0.6
	504	医療的対応	1	0.6
	506	食べ物を視野から取り除く	3	1.9
	590	その他	4	2.5

(参考) 平均回答項目数 → 5.5

(図表) 食事過剰要求場面での成功事例

(図表 2-2-4-2) 食事過剰要求場面の解決方法組み合わせパターン (潜在クラス 12 クラスモデルのプロフィール)

区分	code	解決方法	サイズ	全体											
				パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12
食事環境の調整	101	101 席から離れる	0.329	0.052	0.086	0.281	0.225	0.398	0.906	0.003	0.381	0.704	0.159	0.336	0.498
	102	席の変更	0.346	0.385	0.186	0.312	0.395	0.987	0.287	0.813	0.005	0.705	0.833	0.859	0.007
	104	作業員の人数に合わせたテーブル、椅子の調整	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	105	十分な音楽を流す	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.119	0.000	0.000	0.000
	108	好きな音楽を流す	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.245
	180	その他	0.013	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166
食事の工夫	201	塩カリオンにして大盛りにした	0.166	0.357	0.179	0.127	0.434	0.001	0.002	0.093	0.130	0.273	0.448	0.003	0.004
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	0.127	0.198	0.133	0.001	0.058	0.085	0.229	0.092	0.001	0.422	0.429	0.002	0.003
	203	摂取状態に応じた食料形態変更	0.101	0.189	0.000	0.001	0.001	0.001	0.285	0.001	0.370	0.426	0.152	0.167	0.002
	204	おやつや代乳品を提供	0.487	0.541	0.429	0.278	0.557	0.318	0.820	0.838	0.504	0.702	0.161	0.861	0.889
	206	水分の摂取を増やす	0.430	0.178	0.777	0.395	0.405	0.173	0.995	0.273	0.137	0.845	0.412	0.172	0.499
	207	塩カリオンの開食や夜食の提供	0.171	0.152	0.263	0.003	0.387	0.001	0.000	0.001	0.479	0.292	0.101	0.003	0.484
	208	異味を取り除く、おやつを減らす、異味を取り除く	0.203	0.118	0.304	0.095	0.058	0.001	0.002	0.724	0.002	0.002	0.156	0.988	0.884
	209	スプーンを小さくする	0.036	0.039	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.120	0.000	0.149	0.332	0.001
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	0.063	0.000	0.000	0.236	0.054	0.194	0.001	0.001	0.126	0.001	0.001	0.001	0.001
	211	盛りつけの工夫	0.038	0.078	0.043	0.047	0.054	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.248
	212	好きなものを提供	0.013	0.000	0.042	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.151	0.000	0.000
	215	食事時間の調整	0.013	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120	0.142	0.000	0.000	0.000
	290	その他	0.025	0.000	0.000	0.095	0.000	0.064	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.168	0.001
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をする	0.578	0.583	0.782	0.003	0.137	0.897	0.996	0.835	0.370	0.719	0.994	0.994	0.258
	302	お話を交わし、会話を多くする	0.424	0.088	0.504	0.370	0.394	0.253	0.091	0.367	0.802	0.851	0.145	0.391	0.498
	303	待つことと声かけ	0.158	0.043	0.001	0.091	0.117	0.475	0.233	0.093	0.243	0.695	0.151	0.157	0.003
	304	席の場所を移動し会話をする	0.070	0.038	0.000	0.000	0.222	0.121	0.001	0.272	0.001	0.001	0.150	0.001	0.001
	305	味の調整を行う	0.291	0.347	0.428	0.002	0.591	0.140	0.078	0.095	0.003	0.578	0.004	0.888	0.988
	308	食事以外の話をする	0.139	0.038	0.472	0.001	0.001	0.001	0.353	0.002	0.002	0.427	0.452	0.002	0.003
	309	箸のタイミングを調整した	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.000
	308	声かけをやめ、静かにする	0.006	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	0.032	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.358	0.000	0.148	0.000	0.248
	390	その他	0.025	0.000	0.000	0.143	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.000	0.001
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	0.291	0.001	0.285	0.001	0.992	0.443	0.002	0.002	0.003	0.991	0.833	0.324	0.006
	402	外出	0.443	0.002	0.996	0.002	0.452	0.227	0.753	0.895	0.005	0.993	0.993	0.339	0.009
	403	興味のあるものを提供	0.114	0.001	0.215	0.047	0.001	0.130	0.990	0.001	0.241	0.599	0.002	0.498	0.002
	404	計算ドリル	0.051	0.000	0.086	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.428	0.001	0.498	0.001
	405	投票	0.025	0.000	0.043	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.238	0.000	0.148	0.000	0.001
	407	記録、下膳を手伝ってもらう	0.013	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.091	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	408	買い物につきあってもらう	0.025	0.000	0.129	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.142	0.000	0.000	0.001
	406	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	0.032	0.040	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.092	0.801	0.142	0.000	0.000	0.246
	490	その他	0.006	0.038	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
その他	501	献立の提示や説明	0.095	0.000	0.000	0.000	0.181	0.001	0.089	0.001	0.001	0.426	0.001	0.864	0.981
	503	体重の管理	0.006	0.000	0.000	0.048	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	504	医療的対応	0.006	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.166	0.000
	506	食べ物を視野から取り除く	0.019	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.120	0.142	0.148	0.000	0.000
	590	その他	0.025	0.000	0.000	0.095	0.000	0.000	0.000	0.000	0.239	0.000	0.000	0.000	0.001

(参考) 平均項目数 5.5 3.5 6.8 2.8 5.7 4.7 6.1 5.5 5.0 11.9 7.3 9.0 7.2  
 該当事例数 (180) (26) (23) (21) (19) (15) (11) (11) (8) (7) (6) (4)

(注) 該当事例数は、各パターンのサイズ(確率)から算出した整数値を示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が同値となることがある。

(表 2-2-4-3) 潜在クラスモデル評価 (解決方法組み合わせパターン) (情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	4063.4	3931.7	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	4142.1	3875.6	0.070	0.849	0.734	0.783
モデル3(クラス数3)	4284.3	3883.1	0.076	0.829	0.799	0.803
モデル4(クラス数4)	4444.6	3908.7	0.094	0.861	0.813	0.809
モデル5(クラス数5)	4608.9	3938.2	0.095	0.849	0.826	0.810
モデル6(クラス数6)	4745.7	3940.2	0.086	0.886	0.862	0.843
モデル7(クラス数7)	4951.3	4011.1	0.078	0.895	0.879	0.856
モデル8(クラス数8)	5098.6	4023.6	0.054	0.930	0.913	0.897
モデル9(クラス数9)	5309.2	4099.5	0.061	0.922	0.906	0.888
モデル10(クラス数10)	5477.3	4132.9	0.049	0.940	0.932	0.914
モデル11(クラス数11)	5678.3	4199.0	0.058	0.927	0.926	0.901
モデル12(クラス数12)	5847.5	4233.5	0.027	0.968	0.960	0.949
モデル13(クラス数13)	6046.2	4297.4	0.038	0.952	0.946	0.929
モデル14(クラス数14)	6237.6	4354.1	0.029	0.964	0.957	0.946
モデル15(クラス数15)	6442.2	4424.0	0.044	0.948	0.944	0.922

(表 2-2-4-4) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関  
(全体)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン (n=111)					
		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6
		自分の食事 で満足する ようになった	人のお話を 食べまわら なくなった	要求も種や かになった	食べ物の要 求までの時 間間隔が長 くなった	食べ物の要 求がなくな った	食事時間ま で待てるよ うになった
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	0.012	0.020	-0.158	0.073	-0.030	0.127
パターン2	「外出」、「断えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	-0.028	0.040	-0.028	0.001	0.048	-0.042
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「断えを受容し会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.335 **	-0.087	-0.079	-0.078	-0.038	-0.100
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	-0.005	0.014	0.079	-0.029	0.001	-0.096
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	0.123	0.026	0.109	-0.137	-0.122	-0.037
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	-0.076	0.023	0.017	0.054	-0.026	0.012
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	-0.085	0.072	0.000	0.023	-0.127	0.154
パターン8	「断えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	-0.112	-0.116	-0.001	0.017	0.162	0.119
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「断えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	-0.025	-0.018	-0.123	0.203 *	-0.046	0.019
パターン10	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	-0.030	0.056	0.001	-0.106	0.140	-0.073
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「断えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	-0.102	0.001	0.037	-0.082	0.212 *	-0.059
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	-0.101	-0.099	0.272 **	0.040	-0.079	-0.059

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

(有意水準) 1%水準 \*\*  
5%水準 \*

(表 2-2-4-5) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連  
(高齢者パターン1 “自立、中程度重症度” の場合)

解決方法パターン		有効回答事例数	【比率】(横100)					
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなった	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際の訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった
全体		111	12.6	17.1	23.4	23.4	18.0	26.1
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	18	18.3	11.5	24.2	11.3	23.1	26.6
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	17	5.3	18.1	24.2	17.5	17.4	29.2
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴えを受容し会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	10	6.5	9.8	16.5	19.3	8.3	62.3
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	15	7.5	13.8	22.0	28.8	14.8	20.4
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	8	14.8	0.1	24.0	35.9	0.2	37.3
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	8	8.9	12.1	23.7	22.3	23.9	21.4
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	10	30.3	10.2	39.5	19.9	20.3	10.1
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	5	21.3	38.0	0.0	20.1	19.9	1.2
パターン9	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	6	33.5	50.2	34.4	0.0	48.6	50.3
パターン10	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	6	0.0	33.3	29.9	36.0	0.7	17.8
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	4	0.0	50.6	25.7	48.9	23.7	0.1
パターン12	「おやつや代替品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0

(注) 潜在クラス帰属確率による集計

(表2-2-4-6) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関  
(高齢者パターン1“自立、中程度重症度”の場合)

解決方法の組み合わせパターン		解決後のパターン (n=74)					
		パターン1 自分の食事 で満足する ようになった	パターン2 人のお膳を 食べまわら なくなった	パターン3 要求も極や かになった	パターン4 食べ物の要 求までの時 間間隔が長 くなった	パターン5 食べ物の要 求がなくな った	パターン6 食事時間ま で待てるよ うになった
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	-0.018	0.050	-0.126	0.205	-0.191	0.121
パターン2	「外出」、「新えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	-0.052	0.122	-0.075	-0.032	0.082	-0.036
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「新えを受容し会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.485 **	-0.135	-0.039	-0.127	-0.145	-0.108
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	0.003	-0.013	-0.018	0.040	0.054	-0.092
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	0.248 *	0.035	-0.020	-0.134	-0.132	-0.016
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	-0.140	-0.123	0.085	0.141	-0.004	0.046
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	-0.169	0.128	0.055	0.092	-0.146	0.068
パターン8	「新えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	-0.136	-0.115	-0.010	0.021	0.168	0.111
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「新えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最も多様な組み合わせ	0.122	-0.069	-0.090	-0.076	0.022	0.124
パターン10	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	-0.127	0.029	0.040	-0.105	0.235 *	-0.081
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「新えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	-0.108	0.072	-0.078	-0.095	0.284 *	-0.069
パターン12	「おやつや代替品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	-0.107	-0.086	0.400 **	-0.095	-0.094	-0.069

(注) 潜在クラス帰属確率による相関係数

(有意水準) 1%水準 \*\*

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(兼計手法制約上の配慮)

5%水準 \*

(帰属確率による高齢者パターン1の事例数に近似するもやや異なる)

(表 2-2-4-7) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連  
(高齢者パターン1 “自立、中程度重症度” の場合)

解決方法パターン		有効回答事例数	【比率】(横100)					自分の食事で満足するようになった
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなった	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際は訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	
全体		74	13.5	18.9	16.2	24.3	17.6	25.7
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	11	19.0	0.3	18.8	9.7	35.6	26.1
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	13	6.9	23.6	23.7	15.2	15.1	30.7
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	6	0.0	0.2	0.0	30.3	2.7	82.0
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	9	11.7	21.6	13.5	21.4	21.4	21.1
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	5	23.4	0.0	18.9	21.7	0.0	54.8
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	6	13.2	17.9	0.1	33.1	35.6	18.1
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	7	28.9	14.5	42.5	28.5	28.9	0.0
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	5	19.8	38.7	0.0	20.5	20.3	1.2
パターン9	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	2	49.9	49.8	0.2	0.0	0.1	49.7
パターン10	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	4	0.0	51.8	18.9	28.3	1.1	0.0
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	3	0.0	66.6	33.3	33.3	0.0	0.1
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

(注) 高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)  
潜在クラス帰属確率による集計

(表 2-2-4-8) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後のパターンの相関  
(高齢者パターン2 “一部介助、中高程度重症度” の場合)

		解決後のパターン					
		パターン1 自分の食事で満足するようになった	パターン2 人のお膳を食べまわらなくなった	パターン3 要求も種やかになった	パターン4 食べ物の要求までの時間間隔が長くなった	パターン5 食べ物の要求がなくなった	パターン6 食事時間まで待てるようになった
解決方法の組み合わせパターン							
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	0.063	-0.054	-0.213	-0.161	0.371*	0.159
パターン2	「外出」、「断えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	0.032	-0.048	0.079	0.079	-0.105	-0.085
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「断えを受容し会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	0.056	-0.036	-0.158	0.016	0.235	-0.081
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替え品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	-0.020	0.042	0.291	-0.165	-0.125	-0.101
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	-0.110	0.001	0.385*	-0.142	-0.097	-0.078
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替え品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	0.052	0.248	-0.135	-0.131	-0.088	-0.071
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替え品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	0.093	0.001	-0.136	-0.130	-0.088	0.371*
パターン8	「断えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替え品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	(事例なし)					
パターン9	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「断えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多種多様な組み合わせ	-0.185	-0.044	-0.161	0.546**	-0.104	-0.083
パターン10	「外出」、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	0.142	0.090	-0.074	-0.107	-0.072	-0.058
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「断えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	-0.089	-0.112	0.358*	-0.052	-0.051	-0.041
パターン12	「おやつや代替え品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	-0.087	-0.115	-0.076	0.379*	-0.050	-0.040

(注) 着在クラス帰属確率による相関係数

高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法制約上の配慮)

(帰属確率による高齢者パターン2の事例数に近似するもやや異なる)

(有意水準) 1%水準 \*\*

5%水準 \*

(表 2-2-4-9) 食事過剰要求の解決方法組み合わせパターンと解決後の各状況との関連  
(高齢者パターン2 “一部介助、中高程度重症度” の場合)

解決方法パターン		有効回答事例数	【比率】(横100)					自分の食事で満足するようになった
			食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなった	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際は訴え方には無難感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	
全体		37	10.8	13.5	37.8	21.6	18.9	27.0
パターン1	「スタッフが一緒に食事をとる」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均3.5項目の組み合わせ	7	17.2	27.9	32.2	13.7	4.7	27.4
パターン2	「外出」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとした平均6.8項目の組み合わせ	4	0.0	0.0	26.0	24.8	24.6	24.7
パターン3	共通ベースがなく、「水分の摂取を増やす」、「訴え受容会話多く」、「席の変更」などに分散した平均2.8項目の最少組み合わせ	4	18.1	26.8	45.6	0.0	18.0	27.6
パターン4	「食後のレクリエーション活動への誘導」を共通ベースにして、「味の感想を伺う」と「おやつや代替品を提供」も多い平均5.7項目の組み合わせ	5	0.0	0.0	37.1	41.9	3.1	19.2
パターン5	「スタッフが一緒に食事をとる」と「隣の席から離れる」を共通ベースにした平均4.7項目の組み合わせ	3	0.3	0.3	32.5	59.8	0.3	7.7
パターン6	「スタッフが一緒に食事をとる」、「水分の摂取を増やす」、「隣の席から離れる」、「外出」の4項目を共通ベースにして「おやつや代替品を提供」も多い平均6.1項目の組み合わせ	3	0.0	0.0	71.8	0.1	0.1	28.2
パターン7	「外出」と「席の変更」を共通ベースにして、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「おやつや代替品を提供」の3項目も多い平均5.5項目の組み合わせ	3	33.6	0.0	32.6	0.0	0.3	33.6
パターン8	「訴えを受容し、会話を多くする」と「おやつや代替品を提供」を主とした平均5.0項目の組み合わせ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パターン9	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「水分の摂取を増やす」の4項目を共通ベースとして平均11.9項目と最多で多様な組み合わせ	4	25.1	50.5	51.9	0.0	73.4	50.5
パターン10	外出、「食後のレクリエーション活動への誘導」、「スタッフが一緒に食事をとる」、「席の変更」の4項目を共通ベースにして平均7.3項目の組み合わせ	2	0.0	0.0	49.9	49.8	0.1	50.0
パターン11	「スタッフが一緒に食事をとる」、「訴えを受容し、会話を多くする」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」の3項目を共通ベースにして、平均9.0項目で2番目に多い多様な組み合わせ	1	0.0	0.0	1.5	98.2	98.4	0.0
パターン12	「おやつや代替品を提供」、「食器を小さくしおかわりを増やす、食事数を増やす」、「味の感想を伺う」、「献立の掲示や説明」の4項目を共通ベースにして平均7.2項目の組み合わせ	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

(注) 高齢者パターンは帰属確率をクラスター化した(集計手法の制約上の配慮)  
潜在クラス帰属確率による集計



(表2-2-5-1) 解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			795	100.0
認知能力	1	認知機能	35	4.4
	2	認知症の種類	4	0.5
	3	認知症の症状	46	5.8
健康面	5	体調	51	6.4
	6	現病・既往歴	21	2.6
	7	排泄状況	15	1.9
	8	水分状態	29	3.6
	9	視力・視覚機能	18	2.3
	10	体重・BMI	25	3.1
	11	運動量	36	4.5
	12	睡眠時間・状況	9	1.1
	13	手指腕の機能	15	1.9
口腔機能	14	口腔状況	4	0.5
	15	咀嚼力	13	1.6
	16	嚥下状態・誤嚥	19	2.4
心理面	17	気分	181	22.8
	18	心配ごと・不満状況	58	7.3
	19	本人の気持ち、意志	150	18.9
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	97	12.2
	21	最近の食事量	46	5.8
	22	当日の食事量・おやつ量	68	8.6
	23	満腹感、空腹感	106	13.3
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	28	3.5
	25	盛り付け	37	4.7
	26	食器の配置	19	2.4
	27	食器の大きさ	32	4.0
	28	食器の色	3	0.4
食事時の状態	29	食中の様子	91	11.4
	30	姿勢	11	1.4
	31	視線	39	4.9
	32	食事時の会話	77	9.7
	33	表情	77	9.7
習慣	34	最近の食習慣	34	4.3
	35	生活習慣(ここ数年)	65	8.2
	36	生活歴(幼少期から)	48	6.0
環境	37	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	63	7.9
	38	席の位置	69	8.7
	39	椅子・机の形	3	0.4
	40	椅子・机の高さ	4	0.5
	41	椅子・机の色	1	0.1
人間関係	42	他の入居者との関係	136	17.1
	43	スタッフとの関係	146	18.4
	44	家族関係	10	1.3
介護者の対応	45	スタッフの声かけ内容・見守り方	280	35.2
その他	46	その他	22	2.8

(参考)平均記入項目数 → 2.9

(表 2-2-5-2) 食欲過剰場面の解決に役立った情報の組み合わせパターン (潜在クラス 17 クラスモデルのプロファイル)

Table with 17 columns (I1-I17) and 45 rows (区分, 認知能力, 健康面, 口腔機能, 心理面, 食事関係, 食事中的状態, 習慣, 環境, 人間関係, 介護者の対応). Each cell contains a numerical value representing the profile for that category and item.

(注) 該当事例数は、各パターンのサイズ(確率)から算出して整数表示したものであり、確率が僅差の場合、事例数が四捨五入となることがある。

(表 2-2-5-3) 潜在クラスモデル評価 (情報の組み合わせパターン)  
(情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	15084.9	14879.0	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	14922.6	14506.2	0.073	0.752	0.696	0.737
モデル3(クラス数3)	14998.6	14371.7	0.103	0.737	0.703	0.719
モデル4(クラス数4)	15135.0	14297.6	0.152	0.728	0.691	0.681
モデル5(クラス数5)	15308.7	14260.7	0.142	0.734	0.729	0.710
モデル6(クラス数6)	15488.3	14229.8	0.159	0.751	0.735	0.710
モデル7(クラス数7)	15712.9	14243.9	0.180	0.721	0.726	0.677
モデル8(クラス数8)	15892.6	14213.1	0.183	0.748	0.743	0.691
モデル9(クラス数9)	16136.6	14246.5	0.196	0.753	0.746	0.681
モデル10(クラス数10)	16363.1	14262.5	0.188	0.749	0.754	0.693
モデル11(クラス数11)	16592.0	14280.9	0.155	0.815	0.796	0.740
モデル12(クラス数12)	16840.2	14318.6	0.185	0.775	0.788	0.712
モデル13(クラス数13)	17117.5	14385.4	0.184	0.766	0.770	0.702
モデル14(クラス数14)	17325.3	14382.7	0.176	0.793	0.790	0.720
モデル15(クラス数15)	17553.8	14400.6	0.162	0.812	0.813	0.743
モデル16(クラス数16)	17797.9	14434.2	0.164	0.806	0.815	0.738
モデル17(クラス数17)	18075.2	14500.9	0.155	0.818	0.822	0.752
モデル18(クラス数18)	18359.9	14575.1	0.169	0.807	0.822	0.740
モデル19(クラス数19)	18589.9	14594.6	0.177	0.797	0.825	0.736

(表 2-2-5-4) 情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	5.9	1.0	111	90	69	58	52	50	30	29	24	24	22	19	15	15	15
	102	席の変更	6.4	0.2	39.9	0.1	39.9	0.8	5.1	12.9	0.3	11.4	0.2	16.7	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
	104	仲の良い人の隣に座った	0.3	0.0	4.5	0.6	35.2	1.2	3.5	10.8	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	105	テーブル、椅子の調整	0.1	0.0	0.9	0.0	1.5	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	108	好きな音楽を流す	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	180	その他	0.3	0.0	1.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	食事の工夫	201	紙カローリにして大盛りにした	3.5	0.6	15.4	0.7	0.0	3.1	1.4	0.5	0.7	0.4	0.1	4.1	0.9	11.2	3.7	0.2
		202	カローリを減らし、好きなおかず数を増加	2.3	0.0	9.7	0.3	0.9	2.5	0.1	0.1	0.4	3.4	4.3	0.0	0.1	0.4	0.3	0.0
		203	提供状態に応じた食材提供の変更	1.9	0.0	6.1	0.4	0.4	1.3	5.2	10.3	0.2	6.9	4.2	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
		204	おやつや代替食品を提供	8.8	4.3	20.2	7.3	0.5	12.2	17.3	10.3	2.1	5.0	5.5	17.3	1.1	15.4	15.7	14.8
		206	水分の提供を増やす	7.8	5.0	16.1	4.2	0.6	10.2	9.1	0.5	0.5	1.3	3.9	0.2	0.0	87.9	0.7	5.4
		207	紙カローリの提供や食事の提供	3.0	2.1	9.0	2.2	0.1	3.4	3.5	2.2	0.1	0.5	0.8	4.2	0.7	5.7	14.8	0.5
		208	箸をゆわく	4.0	0.6	8.1	0.2	0.2	5.4	1.2	1.2	0.0	3.5	40.8	4.5	0.0	0.9	0.4	0.0
		209	スプーンをかきぐる	0.8	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	1.9	0.2	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0
		210	座席、下層のチェンジを調整した	1.1	0.0	1.4	1.8	0.4	1.3	0.2	5.0	0.1	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		211	座りつけの工夫	0.8	0.0	1.5	1.8	0.4	0.4	0.1	0.0	0.2	0.0	1.4	7.5	0.0	0.0	0.0	0.2
		212	好きなものを提供	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		215	食事時間の調整	0.3	0.8	0.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.5	0.4	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		280	その他	0.5	0.8	1.0	0.0	0.2	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
声かけや食器の工夫		301	スタックが一緒に流すをどる	10.6	25.2	1.9	7.4	4.7	18.9	5.1	22.0	7.0	4.7	7.3	28.3	0.4	0.2	8.0	7.3
		302	飲み物を多くする	8.2	14.7	0.4	16.0	1.6	11.5	6.8	11.2	3.0	14.6	0.2	10.3	0.2	6.4	0.7	10.7
		303	待つ時間を短くする	2.5	6.1	0.1	3.4	1.8	3.1	2.0	7.0	0.4	2.0	0.1	0.0	1.2	0.0	4.8	0.0
		304	別の場所へ移動し会話する	1.3	1.3	0.0	5.0	1.9	0.4	0.3	0.1	2.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
		305	味の調整を行う	5.3	3.7	4.5	4.8	0.6	9.0	5.9	11.8	0.3	0.2	10.0	9.2	0.2	0.2	0.1	13.1
		308	食事以外の話をする	2.5	4.8	0.0	1.5	0.2	1.6	5.8	0.0	3.5	14.3	0.1	0.2	7.7	0.1	0.6	1.6
	309	箸のチェンジを調整した	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	309	声かけやおも、動かす	0.1	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	310	食事時間の確認や調整を丁寧にする	0.8	0.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.5	0.0	1.1	0.1	0.0	0.1	2.7	0.2	0.6	1.5	
	380	その他	0.5	0.7	1.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.1	
	片断の工夫	401	食事のレクイエーション活動への誘導	5.3	5.5	0.1	11.0	3.7	2.1	6.4	0.1	19.3	0.2	8.8	0.0	0.5	15.6	6.9	0.6
		402	外出	7.5	7.3	0.1	12.4	3.6	4.9	7.0	0.5	24.3	0.5	1.0	0.0	0.9	34.6	6.9	
		403	興味のあるものを提供	2.1	2.0	0.0	0.8	1.3	0.1	5.7	4.3	1.0	4.4	4.4	2.9	0.1	0.1	0.5	0.2
		404	計算ドリル	0.9	0.8	0.0	0.9	1.5	0.1	2.2	3.5	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		405	図解	0.5	0.7	0.0	0.4	0.1	0.0	1.7	4.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
		407	図解、下層を単座りも5分	0.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	2.2	0.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
	その他	408	良い物につぎあても5分	0.5	0.8	0.0	0.9	0.1	2.6	0.1	0.5	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
		409	食事の調整や調整、パフに参加しても5分	0.6	0.6	0.0	0.4	0.1	1.1	3.7	0.0	1.1	0.8	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		409	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
501		席立の指示や説明	1.8	1.4	0.8	1.0	5.0	1.5	2.1	1.6	0.4	0.8	1.8	13.7	0.0	0.2	0.1	0.1	
503		体置の管理	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
508		食べ物を手前から取り除く	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
590	その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.5	0.2	0.0	0.1	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0		

(注) 潜在クラス内標準偏差による集計

(表 2-2-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	そのままにして放っておく	否定・指示・命令的な声かけ	食べるだけ食べさせ、過剰に摂取させる	批判する	大きな声で、いらいらした気持ちで受け答えする	その他
実数	189	168	176	159	159	169	18
パーセント	100.0	88.9	93.1	84.1	84.1	89.4	9.5

## 2. 食事拒否への成功事例調査

### 1) 回答者属性

本調査の回答 266 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

#### (1) 年齢

有効回答 258 件における回答者の平均年齢は、42.9 歳 (SD12.8 歳) で最少年齢が 18 歳、最高年齢が 90 歳であった。その分布をみると、25 歳から 59 歳までほぼ均等にばらついている (35 歳～39 歳がやや少ない)。(表 2-3-1-1 参照)

#### (2) 性別割合

有効回答 263 件中、回答者の性別割合は男性が 76 件 (28.6%)、女性が 187 件 (71.1%) と女性の割合が多かった。(表 2-3-1-2 参照)

#### (3) 職名の割合

有効回答 246 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 102 件 (41.5%)、ケアマネージャーが 77 件 (31.3%)、看護師が 20 件 (8.1%)、相談員が 5 件 (2.0%) となっている。(表 2-3-1-3 参照)

#### (4) 役職の割合

有効回答 254 件中、回答者の役職の割合は管理者が 92 件 (36.2%)、主任・リーダーが 65 件 (25.6%)、施設長が 26 件 (10.2%)、事務長と理事長が各 1 件 (0.4%) で、79 件 (31.1%) が役職なしであった。(表 2-3-1-4 参照)

#### (5) 資格の所有割合

有効回答 260 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 176 件 (67.7%)、ケアマネージャーが 88 件 (33.8%)、ヘルパーが 87 件 (33.5%)、看護師 (准看護師) が 24 件 (9.2%)、社会福祉士が 12 件 (4.6%) であった。(表 2-3-1-5 参照)

#### (6) 所属事業種の割合

有効回答 261 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 248 件 (95.0%)、介護老人福祉施設と介護老人福祉施設 (ユニット型) が各 4 件 (1.5%)、小規模多機能型通所介護事業が 3 件 (1.1%) であった。(表 2-3-1-6 参照)

#### (7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 266 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.0 年 (SD2.4 年) で最少が 0.1 年、最高が 14.8 年であった。(表 2-3-1-7 参照)

#### (8) 総介護経験年数

有効回答 263 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.5 年 (SD5.3 年) で最少が 0.7 年、最高が 42.7 年であった。(表 2-3-1-8 参照)

## 2) 食事拒否の解決経験

本調査に回答を得た 266 件における食事拒否の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害と ADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

### (1) 解決経験の有無

有効回答 262 件中、食事拒否で解決経験があるのは 255 件 (97.3%) であった。

(表 2-3-2-1 参照)

### (2) 高齢者の状態

#### ① 年齢

解決経験がある 255 件のうち有効回答 242 件における高齢者の平均年齢は、84.5 歳 (SD6.1 歳) で最少年齢が 65 歳、最高年齢が 97 歳であった。その分布をみると、80 歳～84 歳が 74 件 (30.6%) で最も多い。(表 2-3-2-2 参照)

#### ② 性別

性別割合は、有効回答 249 件中、男性が 47 件 (18.9%)、女性が 202 件 (81.1%) と女性が多い。(表 2-3-2-3 参照)

#### ③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 243 件中、アルツハイマー型が 146 件 (60.1%)、脳血管疾患型が 56 件 (23.0%)、前頭側頭型が 2 件 (0.8%)、混合が 17 件 (7.0%) であった。(表 2-3-2-4 参照)

#### ④ 身体機能の障害と ADL

##### 【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 255 件中、下肢が 78 件 (30.6%)、体幹が 11 件 (4.3%)、上肢が 3 件 (1.2%) であり、残りの 163 件 (63.9%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 2-3-2-5 参照)

##### 【食事介助】

食事介助は、有効回答 246 件中、自立が 150 件 (61.0%)、一部介助が 80 件 (32.5%)、全介助が 16 件 (6.5%) であった。(表 2-3-2-6 参照)

##### 【移動】

移動は、有効回答 196 件中、短距離歩行自立が 116 件 (59.2%)、長距離歩行自立が 52 件 (26.5%)、杖自立が 25 件 (12.8%) であった。(表 2-3-2-7 参照)

##### 【排泄】

排泄は、有効回答 225 件中、身体介助必要が 144 件 (64.0%)、身体介助必要なしが 79 件 (35.1%) であった。(表 2-3-2-8 参照)

##### 【入浴】

入浴は、有効回答 250 件中、洗身洗髪介助が 92 件 (36.8%)、移動介助が 49

件 (19.6%)、全介助が 23 件 (9.2%)、その他一部介助が 70 件 (28.0%) で、自立が 16 件 (6.4%) であった。(表 2-3-2-9 参照)

#### ⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 250 件中、ランク I が 23 件 (9.2%)、ランク II が 49 件 (19.6%)、ランク III が 92 件 (36.8%)、ランク IV が 70 件 (28.0%)、ランク V が 16 件 (6.4%) であった。(表 2-3-2-10 参照)

#### ⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 247 件中、J ランクが 22 件 (8.9%)、A ランクが 148 件 (59.9%)、B ランクが 64 件 (25.9%)、C ランクが 13 件 (5.3%) であった。(表 2-3-2-11 参照)

#### ⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析(注 1)を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助で自立 (83.9%) が多く、身体障害の重症度で A ランク (76.4%) が多く、認知症の重症度でランク II (27.9%)、ランク III (46.2%) の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 217 件のうち 154 件 (71.0%) が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助 (73.3%) が多く、身体障害の重症度で B ランク (56.0%) と A ランク (29.2%) が多く、認知症の重症度でランク IV (66.5%) が多くことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 63 件 (29.0%) が該当する。(表 2-3-2-12 参照)  
(潜在クラスモデルの評価経緯は表 2-3-2-13 参照)

#### (注 1) 潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団(これをクラスと呼ぶ)を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル(クラス数)を評価する指標として A I C や B I C などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である(注 2 参照)。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。



### 3) 解決前と解決後の変化

食事拒否で解決経験がある 255 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出するとともに、解決前後の関連を分析し、高齢者パターンによる差異も確認した。

#### (1) 解決前の状況

食事拒否が解決される前の状況としては、有効回答 255 件中、「配膳しても手をつけようとしなかった」が 160 件 (62.7%)、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」が 71 件 (27.8%)、「席に誘導しようとする」と拒否した」が 69 件 (27.1%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあつた」が 66 件 (25.9%)、「食事の時間になつても食卓につこうとせず、別の場所にいつてしまつていた」が 57 件 (22.4%)、「居室内でお菓子を食べていた」が 13 件 (5.1%)、「食事の時間になつても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘つても断つた」が 7 件 (2.7%) であつた。(表 2-3-3-1 参照)

#### (2) 解決後の状況

食事拒否が解決された後の状況としては、有効回答 251 件中、「声をかけると素直に食べるようになった」が 75 件 (29.9%)、「時間はかかるが摂取するようになった」が 73 件 (29.1%)、「拒否が少なくなり、食べるようになった」が 66 件 (26.3%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた」が 65 件 (25.9%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」が 41 件 (16.3%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」が 40 件 (15.9%)、「全量完食するようになった」が 31 件 (12.4%)、「介助すると口をあけ、食べるようになった」29 件 (11.6%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」26 件 (10.4%)、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」が 18 件 (7.2%) であつた。(表 2-3-3-2 参照)

#### (3) 解決前後の関連

解決前後それぞれの項目重複による影響排除のために、パターン化を経て分析することにした。

##### ① 解決前のパターン

パターン化に用いた方法は潜在クラス分析である。

解決前は 6 パターンであり、第 1 は、「配膳しても手をつけようとしなかった」(99.9%) に加えて、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(22.0%) や「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあつた」(14.8%) を若干伴っている。これに該当する事例が 90 件 (43.9%) であり、「配膳しても手をつけようとしなかった」パターンと表示する。

第 2 は、「席に誘導しようとする」と拒否した」(98.7%) に加えて、「配膳して

も手をつけようとしなかった」(38.6%)、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいてしまっていた」(25.8%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(18.8%)などを伴っている。これに該当する事例が31件(15.1%)であり、「食卓につこうとしなかった」パターンと表示する。

第3は、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(80.3%)に加えて、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(48.9%)や「配膳しても手をつけようとしなかった」(31.2%)を伴っている。これに該当する事例が29件(14.1%)であり、「介助しても食べようとしなかった」パターンと表示する。

第4は、「席に誘導しようとする」と拒否した」(98.5%)に加えて、「配膳しても手をつけようとしなかった」(73.1%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(67.8%)、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいてしまっていた」(63.1%)、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(52.3%)など平均3.7項目の多様な状況を伴っている。これに該当する事例が28件(13.7%)であり、「複合的食卓誘導拒否」パターンと表示する。

第5は「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいてしまっていた」(98.6%)に加えて、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあった」(19.4%)や「配膳しても手をつけようとしなかった」(11.0%)を伴っている。これに該当する事例が18件(8.8%)であり、「食卓以外の別の場所にいていた」パターンと表示する。

第6は「居室内でお菓子を食べていた」(95.4%)に加えて、「配膳しても手をつけようとしなかった」(38.6%)や「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」(25.7%)を伴っている。これに該当する事例が8件(3.9%)であり、「居室内でお菓子を食べていた」パターンと表示する。(表2-3-3-3参照)

なお潜在クラスモデルの評価に際しては、4クラスから6クラスまで3種モデルの情報量規準のAICが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される6クラスモデルを採用した。(表2-3-3-4参照)

## ② 解決後のパターン

解決後は8パターンであり、第1は、「声かけると素直に食べるが多くなった」(79.7%)に加えて、「全量完食するようになった」(31.6%)や「自分から食器を持ち食べるようになった」(26.1%)などを伴っている。これに該当する事例が46件(22.4%)であり、「声をかけると素直に食べるが多くなった」パターンと表示する。

第2は、「時間はかかるが摂取するようになった」(99.1%)に加えて、「声を

かけると素直に食べることが多くなった」(26.0%)や「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできてきた」(17.8%)などを伴っている。これに該当する事例が45件(22.0%)であり、“時間はかかるが摂取するようになった”パターンと表示する。

第3は、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできてきた」(99.5%)に加えて、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(10.5%)、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(9.7%)などを伴っている。これに該当する事例が28件(13.7%)であり、“必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできてきた”パターンと表示する。

第4は、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(75.0%)に加えて、「時間はかかるが摂取するようになった」(23.6%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(22.9%)、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」(17.2%)などを伴っている。これに該当する事例が28件(13.7%)であり、“毎回ではないが食べ始めるようになった”パターンと表示する。

第5は、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(99.1%)に加えて、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(15.0%)を伴っている。これに該当する事例が26件(12.7%)であり、“拒否が少なくなり、食べるようになった”パターンと表示する。

第6は、「介助すると口をあけ、食べるようになった」(92.3%)に加えて、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」(34.0%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできてきた」(27.4%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(18.6%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」(17.5%)などを伴っている。これに該当する事例が12件(5.9%)であり、“介助すると口をあけ、食べるようになった”パターンと表示する。

第7は、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(98.7%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできてきた」(98.1%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(81.1%)の3項目に加えて、「声かけると素直に食べることが多くなった」(61.0%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」(44.8%)、「全量完食するようになった」(33.3%)など平均4.4項目に及ぶ多様な状況を伴っている。これに該当する事例が11件(5.4%)であり、“拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもできてきた”パターンと表示する。

第8は、「時間はかかるが摂取するようになった」(98.7%)と「介助すると口をあけ、食べるようになった」(81.2%)の2項目に加えて、「拒否が少なくなり、食べるようになった」(68.5%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全

量摂取することもできた」(65.4%)、「声かけると素直に食べるが多くなった」(37.0%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」(32.8%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」(23.6%)など平均4.1項目の多様な状況を伴っている。これに該当する事例が9件(4.4%)であり、「介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった」パターンと表示する。(表2-3-3-5参照)

ここでも潜在クラスモデルの評価に際しては、5クラスから8クラスまで4種モデルの情報量規準のAICが僅差のため、クラスの解釈が最も妥当と判断される8クラスモデルを採用した。(表2-3-3-6参照)

### ③ 解決前後のパターンの関連

各パターンへの帰属確率の相関によって解決前後の関連分析をした。

相関は正負両方表れるが、ここでは「解決前どうであったのが解決後どうなった」という関連をみる観点から正相関にのみ着目する。そしてまず全体的な傾向をみた上で、高齢者パターンによる差異を確認する。

まず全体では3つの変化傾向がみられる。1つめは、解決前パターン4(複合型食卓誘導拒否)が、解決後パターン8(介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

2つめは、同じく解決前パターン4(複合型食卓誘導拒否)が、解決後パターン7(拒否が少なくなり、一緒に食堂で、全量摂食することもできた)へと変化する傾向であり、これも有意水準1%で相関が認められる。

3つめは、解決前パターン3(介助しても食べようとしなかった)が、解決後パターン4(毎回ではないが食べ始めるようになった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。(表2-3-3-7参照)

次に高齢者パターン1(自立、中程度重症度)に限定してみると、上記3つの傾向のうち1つめの解決前パターン4(複合型食卓誘導拒否)が、解決後パターン8(介助すると口をあけ、時間はかかるが摂食するようになった)へと変化する傾向だけが確認され、他の2つの傾向は認められない。(表2-3-3-8参照)

高齢者パターン2(一部介助、中高程度重症度)に限定してみると、上記3つの傾向を含めて、都合6つの傾向が認められる。

上記3つの傾向は省略するが、4つめは、解決前パターン2(食卓につこうとしなかった)が、解決後パターン1(声かけると素直に食べるが多くなった)へと変化する傾向であり、有意水準1%で相関が認められる。

5つめは、解決前パターン6(居室内でお菓子を食べていた)が、解決後パターン2(時間はかかるが摂取するようになった)へと変化する傾向であり、有意水準5%で相関が認められる。